

## 伊勢市教育研究所

# たよ町



<第6号>

<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo>

E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

令和5年1月5日  
伊勢市教育研究所  
伊勢市小俣町元町540番地



令和4年度教育研究プロジェクト

〔社会科副読本『わたしたちの伊勢市』の活用に係る実践研究〕

## 浜郷小学校公開授業研究会

研究会報告

第1弾

令和4年11月16日(水)、浜郷小学校で公開授業研究会が行われました。3年生社会科 店ではたらく人々の仕事『スーパーマーケットの秘密を見つけよう』の授業を公開していただきました。

研究協議では、指導者である中山 直紀教諭から、「みんなで深めていくことが『たのしいな。』と思えるような授業にしたいと思い実践した。」と授業を終えての報告がありました。

『自分の経験や考えをもとにして、学習課題に対して考えを深めることができたか。』を参観の視点・協議の柱として、公開授業への感想や質問、自分たちが授業をしていて感じる事などについて意見を出し合っの研究協議となりました。課題設定や板書の仕方、評価についてもたくさんの意見が出されました。



### \* 参加者の感想より \*

\*これまでの学習の流れにつながりがあり、児童たちも前回までの学習を振り返りながら考えられていて素晴らしかったです。グループや全体の話し合いでは、全員がしっかり参加していて、授業が活発に進んでいると感じました。児童から出た疑問を授業のめあてにされているので、児童が主体的に活動に取り組んでいました。

\*社会の授業でこんなにも子どもたちがいきいきと活動しているところを初めて見た。興味が持てるような工夫はとても大切だと実感した。

助言者  
西 良孝先生より



西先生には、社会科副読本『わたしたちの伊勢市』の改訂にも助言者としてご協力をお願いしています。先生の、授業後の考察を紹介します。

「(先生) 6限目もやろう。」といった発言も出たように、学級の全員が意欲的に一生懸命に取り組み、和やかな笑も交えながら楽しんで進んでいった授業でした。社会科が大嫌いと言っていた児童を見ていた先生から、「皆が話し合っている中で発表ができ、授業終了後、『先生、がんばったやろ。』と言っていました。」と聞かせてもらい、うれしく思いましたし、私たちにとっても多くのことが学べる授業だったと思いました。

指導案の書き方については様々な考え方もありますが、新しい評価規準の視点と関わらせながら検討されていて、この授業を巡って中学年部会の先生方の協力やそれを支える学校の雰囲気の温かさも感じました。

買い物調べでスーパーマーケットが多かったことから3年生の先生方は何度か店へ足を運ぶと共に、子どもも見学に出かけ、そこから疑問に思うことを出すように進めて行きましたが、その中で「なぜ野菜は半分カットや4分の1カットでも売っているのか。」や「スーパーなのになぜいくつかの店が集まっているのか。」をはじめ、大人では普段頭に浮かばない3年生らしい見方から店の様子に目を向けたのは、意欲的に取り組んでいる証で、これを尊重しながら学習を進めていったのは大切なことだと思いました。

以前、教師が課題を出してそれについて子どもに話し合いをさせて、最後に教師が解答を伝え、1時限を終えるといった授業がよく行われていました。私は、そのような授業の形を全部否定はしません。しかし、教え込む授業だけで進めていくと、子どもは受け身がちとなり、今回の指導要領で示されている「一方的に教える授業ではなく能動的に参加できるようにした所謂アクティブラーニング」の方向とは異なるものになるといえます。

今回の学習に見られたように、疑問を最後に残すことにより問題意識を持続させ、資料を調べたり、誰かに聞きたくなったりするような部分を残しながら次時に繋げるような工夫は、これからの授業のあり方の一つを示していると思います。ただ本時では、それに沿った計画でしたが、時間的なこともあり後半の展開には少し検討したい部分があったようです。

本時の学習問題として、「ぎゅーとらの中にいくつかの店が入っているのはなぜだろう。」という子どもが出した疑問を取り上げたことは、自分たちが主体となって学習をしているという意識を持たせる点で良かったと言えますが、私の授業記録のメモを見えますと、前半、子どもたちは店が集まっているのは「客が便利だから。」という購買者側からの考えが多く出されてきました。しかし、ある子が、「客だけでなく店もうれしい。」という発言をしたことは流れを変えるチャンスでした。もとより店は企業であり利益を上げる一つ的手段として専門的な言葉でいう「集積の利益」を考えているはずですが、教師の出場（出る場面）・出方（出る方法）が求められるとするならばここにあったと思います。この発言から店側からの視点をもっと出させると、話し合いがもう少し深まったはずですが。

しかしながら、このような事が言えるのは参観している側であって、授業中の教師はいろいろな所に神経を使っているため簡単には分かりません。そこで私は、年に1~2度でいいので授業記録をとることを勧めています。（中山先生は本時の前にとったとのこと。）これは音声中心の授業を文字に変えてじっくり読み取ることにあります。録音を聞くだけでも教師の発言の多さや子どもの発言の真意に気づくことは少なくは無いのですが、更に言えば授業分析のやり方は60年以上も前から行われ、成果も出ているので、そのことも加えていくと、より以上の授業が期待できると思いました。

最後に、副読本作成は市全体のことを考え、教科書を参考にし、先生方の意見を入れながらも机上での作業が多いことによる様々な制約は否定できません。その点、過去も含めて今回もまた副読本の編集に関わる多くのヒントをいただきました。授業を引き受けていただいた中山先生や学校に感謝しますと共に、このような活動を重ねることで本市の教育の更なる発展の一助になればと思っています。